

科目名	就職対策			担当教員名	佐藤 剛志		<input type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報マルチメディア		学科	学年	3	単位数(時間数)	1単位(28時間)	
実施時期	4月	～	7月	授業形態	講義	○	演習	△
教科書 及び参考書								
授業の概要とねらい								
就職試験の準備を行うと共に、社会人としての一般常識を身に付ける。								
到達目標								
<ul style="list-style-type: none"> ・SPIの解き方を理解する。 ・就職試験の準備が一人で行える。 								
授業計画								
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
求人票の見方					4	過去の求人票を使用して、求人票の項目について1つずつ説明を行う。		
求人検索の仕方					4	マイナビ、リクナビの登録と求人検索の仕方について説明を行う。		
履歴書の書き方					4	履歴書の書き方指導を行う。		
面接対策					6	面接の基本マナーの解説と、基本的な質問についての解答を各自で考えまとめる。		
ペン字練習					4	ドリルを使用し、ペン字練習を行う。		
SPI練習					6	就職試験対策として、SPIの練習と解説を行う。		
合 計					28			
時間外学習について								
各自履歴書を5枚書き上げて提出すること。 マイナビ、リクナビをこまめにチェックし企業研究を行うこと。								
成績評価の方法及び評価割合について								
SPIを用いた期末試験を実施。試験の点数で評価を行う。								
その他(科目と実務経験との関連性について)								

科目名	オラクルマスター(SQL)		担当教員名	木村 宗裕		□ 実務経験				
学科名	情報マルチメディア(情報ネットワーク専攻)	学科	学年	3	単位数(時間数)	5 単位(102時間)				
実施時期	5 月 ~ 9 月	授業形態	講義	△	演習	○	実習	△	実技	○は主、△は併用
教科書及び参考書	ORACLE MASTER Bronze[12c SQL基礎](試験番号:1Z0-061) 完全詳解+精選問題集(オラクルマスタースタディガイド)(SBクリエイティブ)									
授業の概要とねらい										
現在データベースは様々な場所で使われており、データベースを操作するSQLはシステムエンジニアとして必須の知識である。本講義ではORACLE DATABASE 12cを題材に講義と演習及び実習を行い、SQLについて理解を深める。また、ORACLE のSQL試験を対象とした試験対策演習を通じて知識の定着を図るとともに試験の合格を目指す。										
到達目標										
ORACLE DATABASE の使用方法について理解し、SQLでデータベースの操作が行えるようになる。また、ORACLE の12c SQL基礎(試験番号:1Z0-061) 試験の合格レベルの知識習得を目標とする。										
授業計画										
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)							
授業内容の説明・環境構築		1								
序章 ORACLE DATABASEと資格の説明		1								
1章 データベースとSQLの説明(教科書 P16~23)		1								
演習課題1・解説		1	間違えた問題についてはやり直しを提出。							
2章 SELECT文・演算子・列別名・重複排除(教科書 P30~48)		1								
演習課題2・解説		2	間違えた問題についてはやり直しを提出。							
3章 WHERE・IN・LIKE・論理演算子(教科書 P60~79)		1								
ORDER BY・列別名・置換変数(教科書 P80~97)		1								
演習課題3・解説		2	間違えた問題についてはやり直しを提出。							
4章 単一行関数(文字関数・数値関数・日付関数) (教科書 P112~138)		2								
演習課題4・解説		3	間違えた問題についてはやり直しを提出。							
5章 データ型の変換と型変換関数 (教科書 P148~172)		2								
演習課題5・解説		3	間違えた問題についてはやり直しを提出。							
6章 グループ関数とデータの集計 (教科書 P184~197)		2								
演習課題6・解説		3	間違えた問題についてはやり直しを提出。							
7章 複数の表の結合(等価結合・自然結合・USING) (教科書 P208~228)		2								
複数の表の結合(非等価結合・外部結合・自己結合) (教科書 P229~241)		2								
演習課題7・解説		3	間違えた問題についてはやり直しを提出。							
確認課題1(演習課題1~7の範囲の確認課題)・解説		4								
確認テスト1(演習課題1~7の範囲の確認テスト)		2	60点未満はやり直しレポート提出。							
8章 副問い合わせ(教科書P254~270)		2								
演習課題8・解説		3	間違えた問題についてはやり直しを提出。							
9章 集合演算子(教科書 P278~291)		1								
演習課題9・解説		2	間違えた問題についてはやり直しを提出。							
10章 DMLによるデータの追加・更新・削除(教科書 P300~314)		2								
トランザクション制御・読み取り一貫性・ロック(教科書 P315~339)		3								
演習課題10・解説		4	間違えた問題についてはやり直しを提出。							
11章 表の作成と削除・スキーマ・制約の種類(教科書 P348~393)		4								
演習課題11・解説		3	間違えた問題についてはやり直しを提出。							
確認課題2(演習課題8~11の範囲の確認課題)・解説		4								
確認テスト2(演習課題8~11の範囲の確認テスト)		2	60点未満はやり直しレポート提出。							
確認テスト3(全範囲の確認テスト)		3	60点未満はやり直しレポート提出。							
模擬試験1~6		30	模擬試験2時間・解説3時間を6回分実施。各模擬試験で間違えた問題はやりなおしレポートを提出。							
合 計		102								
時間外学習について										
授業前に教科書を読み予習をし、授業中の実習内容についても復習を行うこと。また、演習課題や模擬試験実施後はやり直しを提出をすること。										
成績評価の方法及び評価割合について										
出席・授業態度及びやり直しの提出を20%で評価する。また、確認テスト1・確認テスト2・確認テスト3の点数をそれぞれ10%で評価する。模擬試験1~6の平均点で50%の評価とする。なお、点数が不足する場合は補習及びレポートの提出を求めることがある。										
その他(科目と実務経験との関連性について)										

科目名	ドットコムADVANCE		担当教員名	河野 明彦		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報マルチメディア	学科	学年	3	単位数(時間数)	5単位(90時間)	
実施時期	4月～7月	授業形態	講義	<input type="radio"/> 演習	実習	実技	<input type="radio"/> は主、 <input type="radio"/> は併用
教科書 及び参考書	「インターネット検定 .comMaster ADVANCE 公式テキスト第3版」 「.comMaster問題集」「自作用語集」「自作模擬試験問題」						
授業の概要とねらい							
対象となる学生はDD1・2種、シスコ、Linuxなどハード面を中心としたネットワークの学習をすでに終えており、ネットワーク業界への就職をめざしている。ソフトやセキュリティ、関連法規などを利用技術を含めてこの科目を学ぶことにより、ネットワーク知識のさらなる充実をめざす。また、その成果として「NTT.comMaster ADVANCE ★、★★」の取得もめざし、ネットワークに精通した人材として活躍できる人をめざす。							
到達目標							
ネットワーク業界で必要な用語を理解し、一般の方への説明ができるようになること。社内で発生するネットワークトラブルへの対処ができること。最終的には「NTT.comMaster ADVANCE ★または★★」に合格すること。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
インターネットの基礎知識 歴史・構成と要素			3	毎回ミニテスト(用語問題)を5分程度で実施し、解説を行う。翌日はほぼ同様の問題を実施し理解度を確認する。			
インターネットの通信関連技術 通信プロトコル			3				
LAN・転送技術			3	授業はテキストをPowerPointにしたものを使い、丁寧に説明をおこなう。			
アプリケーション関連技術 サーバ			3				
ドメインと名前解決			2	各章ごとに確認問題を実施して理解度の確認を行う。誤り箇所はやり直しの上、提出、チェックを行う。			
メール配信技術とWWW技術			2				
インターネット接続機器・機材			2	各章ごとに確認問題を実施して理解度の確認を行う。誤り箇所はやり直しの上、提出、チェックを行う。			
インターネット接続技術と設定			2				
家庭内LAN			2	実施時間50分・自己採点・結果提出。 結果分析と弱点解説50分。 自宅でやり直しの上、レポート提出。 また、さらに模試4回分を自宅学習として実施、結果及びレポートは提出。			
IPv4からv6への移行手順と注意点			2				
インターネット接続プロバイザー			2	実施時間50分・自己採点・結果提出。 結果分析と弱点解説50分。 自宅でやり直しの上、レポート提出。 また、さらに模試4回分を自宅学習として実施、結果及びレポートは提出。			
インターネット利用に関するトラブル事例と対策			3				
WWW Webブラウザ設定と利用、トラブル対策			2	実施時間50分・自己採点・結果提出。 結果分析と弱点解説50分。 自宅でやり直しの上、レポート提出。 また、さらに模試4回分を自宅学習として実施、結果及びレポートは提出。			
電子メール 使い方とトラブル対策			2				
クラウドコンピューティング			2	実施時間50分・自己採点・結果提出。 結果分析と弱点解説50分。 自宅でやり直しの上、レポート提出。 また、さらに模試4回分を自宅学習として実施、結果及びレポートは提出。			
IoT構成技術・セキュリティ			2				
人工知能と今後の発展			2	実施時間50分・自己採点・結果提出。 結果分析と弱点解説50分。 自宅でやり直しの上、レポート提出。 また、さらに模試4回分を自宅学習として実施、結果及びレポートは提出。			
セキュリティの基礎知識 暗号技術			3				
端末利用時の脅威とその対策 マルウェアや不正アクセス対策			3	実施時間50分・自己採点・結果提出。 結果分析と弱点解説50分。 自宅でやり直しの上、レポート提出。 また、さらに模試4回分を自宅学習として実施、結果及びレポートは提出。			
LAN利用時の脅威とその対策			3				
インターネット利用時の脅威とその対策			3	実施時間50分・自己採点・結果提出。 結果分析と弱点解説50分。 自宅でやり直しの上、レポート提出。 また、さらに模試4回分を自宅学習として実施、結果及びレポートは提出。			
インターネット上のサービス 検索・SNS・映像音声他			3				
主要技術のビジネス活用			3	実施時間50分・自己採点・結果提出。 結果分析と弱点解説50分。 自宅でやり直しの上、レポート提出。 また、さらに模試4回分を自宅学習として実施、結果及びレポートは提出。			
インターネット利用に関する法律			3				
電子商取引			3	実施時間50分・自己採点・結果提出。 結果分析と弱点解説50分。 自宅でやり直しの上、レポート提出。 また、さらに模試4回分を自宅学習として実施、結果及びレポートは提出。			
電子政府			3				
公職選挙法におけるインターネットの利用			3	実施時間50分・自己採点・結果提出。 結果分析と弱点解説50分。 自宅でやり直しの上、レポート提出。 また、さらに模試4回分を自宅学習として実施、結果及びレポートは提出。			
模試・解説			21				
合 計			90				
時間外学習について							
ミニテスト(用語問題)と模擬試験の誤り箇所はやり直しをさせるため、時間外学習となる。							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
ミニテストの結果を30%、模擬試験結果を50%、本試験の結果を20%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
システム開発業務で経験した知識をもとにハードウェアやOSを含めインターネット全般について基礎を教える。また運用業務で経験したネットワーク設定やトラブル対処についても実例を挙げながら教える。							

科目名	Python		担当教員名	馬場 清		<input type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報マルチメディア(情報ネットワーク専攻)	学科	学年	3	単位数(時間数)	1単位(52時間)	
実施時期	5月～9月	授業形態	講義	演習	実習	<input type="checkbox"/>	実技
教科書 及び参考書	ゼロからわかる Python超入門						
授業の概要とねらい							
IoTには小型のシングルボードコンピューターなども利用され、IoTに携わるエンジニアにはプログラミング知識は必須である。この授業では、その中でもRaspberryPiやAIコンピューターボードJetsonNanoなどでよく使用されるPythonについて学習する。							
到達目標							
プログラミング言語Pythonの構文をしっかりと理解し、自分で簡単なコーディングができるようになること。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
基本のデータの種類・演算子・変数			1	単元終了ごとに課題を出し、学生の理解度を確認しながら、授業を展開していく。			
課題1			1				
条件を表す演算子・条件によって命令を変更・複数の条件を組み合わせ			1	なお、課題はすべて提出すること。			
課題2			2				
リスト・タプル			1				
辞書セット			1				
課題3			2				
決まった回数繰り返し			1				
終わりになるまで繰り返し			1				
課題4			2				
関数の作り方と使い方			1				
関数の引数と戻り値			1				
課題5			2				
オブジェクト指向			1				
クラス			1				
課題6			2				
モジュールとパッケージ			1				
課題7			2				
日時に関するモジュール			1				
乱数を作るモジュール			1				
外部ライブラリ			1				
課題8			2				
ファイルからデータの読み込みと書き込み			1				
課題9			2				
正規表現			1				
ファイル名を検索			1				
課題10			2				
例外・関数内部で例外処理・関数を呼び出した側で例外処理			1	シングルボードコンピューターを利用した応用課題は、LEDや温度センサー、サーボモーターなどを接続して仕組みと動作を確認する。			
課題11			2				
シングルボードコンピューターを利用した応用課題			12				
期末試験			1				
合 計			52				
時間外学習について							
その日学んだ内容を自宅でしっかりと復習しておくこと。また、単元終了ごとに課題を出す。課題が時間内に終わらない場合は、放課後または自宅で課題を行うこと。							
成績評価の方法及び評価割合について							
出席率・授業に取り組む姿勢・課題・期末試験の結果で総合的に評価する。課題を20%、期末試験を70%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	Linuxサーバー構築		担当教員名	馬場 清		<input type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報マルチメディア(情報ネットワーク専攻)	学科	学年	3	単位数(時間数)	1単位(35時間)	
実施時期	6月～7月	授業形態	講義	演習	実習	<input type="checkbox"/>	実技 <input type="checkbox"/>
教科書 及び参考書	TECHNICAL MASTER はじめてのCentOS7 Linuxサーバ構築編						
授業の概要とねらい							
授業において当たり前のようにサーバーという単語がよく出てくるが、知識だけではなくサーバーを実際に自分で構築することにより、理解をより深める。また、サーバーOSとしてよく利用されるLinuxを操作することにより、コマンドやセキュリティの設定方法などを学習する。							
到達目標							
Linuxの操作方法をしっかりと身につけるとともに、自分でセキュリティ対策の施されたサーバーを構築できるようになることを目標とする。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
CentOS 7のインストール			2	まずは授業の内容を説明し、やるべき内容を分かってもらった上で、実際にサーバーの設定を行い、理解を深めていく。			
コマンドラインからの操作			2				
パッケージのインストールと管理を行う			1				
サービス管理を知っておく			1				
ファイルとディレクトリのアクセス権限を理解する			1				
高度なセキュリティの仕組みを理解する			2				
ゾーンを設定する/パケットフィルタリングルールを設定する			1				
DHCPをインストール/IPv4でDHCPサーバを使う			2	DHCPサーバなどいくつかのサーバー構築する際に、サンプルの設定ファイルを渡すが、それを自分のネットワーク環境に合わせて修正をしてもらい、各自サーバー設定を行う。			
IPv6でDHCPサーバを使う			1				
DHCPサーバの動作を確認する			1				
ファイル共有の仕組みを理解する			1				
Sambaをインストール/フォルダを公開する			1				
Windowsからアクセスする/共有へアクセス権を設定する			2				
DNSキャッシュサーバを理解する			1				
unboundをインストール/DNSキャッシュサーバを作る			1				
フォワーディングサーバを作る			1				
DNSコンテンツサーバを理解する			2				
BINDをインストール/マスタサーバを作る			2				
メールサーバの構築を準備する			1				
Postfixをインストール/設定する			1				
POP/IMAPサーバを設定する			1				
Apacheの基本的な設定を行う			1				
Apacheの便利な設定を行う			2				
仮想ホストの設定を行う			2				
SSL対応のWebサーバを作成する			1				
Linuxサーバー構築試験			1				
合 計			35				
時間外学習について							
試験で評価を行うため、事前の予習およびその日学んだ内容の復習をしっかりとしておくこと。							
成績評価の方法及び評価割合について							
出席率・授業に取り組む姿勢・試験の結果で総合的に評価する。試験の結果を全体の90%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満はD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	情報処理試験総合演習Ⅱ CN		担当教員名	木村宗裕 森崎真由美		□ 実務経験	
学科名	情報マルチメディア(情報ネットワーク専攻)	学科	学年	3	単位数(時間数)	4 単位(99時間)	
実施時期	4 月 ~ 4 月	授業形態	講義	△	演習	○	実習
教科書 及び参考書							
授業の概要とねらい							
<p>情報処理の国家試験は自分の知識を証明することができる重要な資格である。本科目は模擬試験と解説を通じて情報処理の知識を身に着けるとともに、各種の情報処理国家試験の合格を目指す。なお、本科目は年間を通じて行われるため、受験する試験については適切な時期に都度決定する。</p>							
到達目標							
<p>受験対象として設定した資格試験の合格を目標とする。</p>							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
概要説明			1	授業の進め方についての説明を行う			
練習問題・解説			5	4月の試験に向けて各試験の練習問題を解き、解説を行う			
模擬試験1・自己採点・解説			12	<p>模擬試験を6時間・解説を6時間で実施する(土曜日に実施する模擬試験については3時間分は課題とする)。模擬試験については担当教員による採点に加えて自己採点も行う。解説では模擬試験の解説及び関連知識についての講義も行う。 試験後は必ずやり直しレポートの提出を求める。 また、模擬試験を実施しない日、および週末には自宅学習用の課題を出題し、その提出も求める。</p>			
模擬試験2・自己採点・解説			12				
模擬試験3・自己採点・解説			9				
模擬試験4・自己採点・解説			12				
模擬試験5・自己採点・解説			12				
模擬試験6・自己採点・解説			9				
模擬試験7・自己採点・解説			12				
模擬試験8・自己採点・解説			12				
模擬試験9・自己採点			3				
合 計			99				
時間外学習について							
<p>模擬試験については必ずやり直しをし、担当教員へ提出をすること。また、授業後に課題を配布された場合は必ず指定された期日までにやり遂げたい提出を行うこと。</p>							
成績評価の方法及び評価割合について							
<p>資格試験の結果の点数により100%評価を行う。その際に受験した資格の難易度についても考慮したうえで評価する。なお、やむを得ない理由により受験できなかった場合についてはそれまでの模擬試験結果の平均点により評価を行う。</p>							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	卒業研究CNA			担当教員名	馬場 清		□ 実務経験	
学科名	情報マルチメディア(情報ネットワーク専攻)	学科		学年	3	単位数(時間数)	10 単位(486時間)	
実施時期	9 月 ~ 1 月	授業形態	講義	演習		実習		実技 ○ ○は主、△は併用
教科書 及び参考書								
授業の概要とねらい								
3年間学んできた技術や知識の活用方法を、実践を通じてより深いレベルで理解する。システム開発は全ての工程をを学生主導で行い、随時担当教員からのチェックと指導を受けることにより進める。また、複数回行う発表で進捗状況のチェックを行うとともに、効果的なプレゼン方法について理解する。最終的には3年間の集大成として、卒業研究成果発表会にて企業の方に対しプレゼン・質疑応答を行う。								
到達目標								
グループで協力し、自らが企画したシステムをスケジュール通りに完成させることでシステム開発について体験し理解する。また、完成したシステムについて効果的にプレゼンする方法を理解する。								
授業計画								
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
卒業研究説明				1				
テーマ決定・技術調査・システム設計・スケジュール作成				18	毎日進捗報告を行う。			
システム設計(テーマ発表での指摘事項の反映)・スケジュール調整				18				
開発・テスト				269	毎日開発状況について進捗報告を行う。			
開発・テスト・中間発表プレゼンテーション準備				30	発表前に必ず発表スライドの確認及び発表練習を行う。			
中間発表(テーマ説明・システム詳細説明・進捗報告・デモ)				10				
開発・テスト				72	毎日進捗報告を行う。			
開発・テスト・プレ発表プレゼンテーション準備				26	プレ発表までにシステムを完成させる。			
プレ発表(テーマ説明・システム詳細説明・デモ)				6	発表前に必ず発表スライドの確認及び発表練習を行う。			
卒業研究成果発表会プレゼンテーション準備				10	卒業研究成果発表会は企業の方を招き実施する。			
卒業研究成果発表会(テーマ説明・システム詳細説明・デモ)				6				
成果物のまとめ・提出・マニュアル作成				20	期限までにすべての成果物の提出を行う。			
合 計				486				
時間外学習について								
スケジュールの遅れについては授業時間外に作業を行い、調整を行うこと。								
成績評価の方法及び評価割合について								
作成したシステムの完成度25%、学科内発表のプレゼンテーションの完成度25%、開発中の取り組む姿勢50%で評価を行い、評価点(100点満点)を算出する。また、ドキュメント、プレゼンテーションのファイル、開発したシステムのファイルは成果物として提出すること。評価は評価点が90点以上ならばS、80点以上ならばA、70点以上ならばB、60点以上ならばCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や成果物の未提出はD(不可)とする。								
その他(科目と実務経験との関連性について)								

科目名	電工技術知識試験対策			担当教員名	馬場 清・若林 茂典			□ 実務経験	
学科名	情報マルチメディア(情報ネットワーク専攻) 学科		学年	3		単位数(時間数)		3単位(58時間)	
実施時期	4 月 ~ 5 月	授業形態	講義	○	演習		実習		実技
教科書 及び参考書									
授業の概要とねらい									
電気工事士筆記試験に必要とされる知識を修得する。過去問題を模擬試験として実施した演習の解説を行う。計算問題については丁寧に解説しやり直しを義務付けることで、解き方をマスターする。技術や法律、配線図などの知識の不足している部分を強化する。									
到達目標									
第2種電気工事士 筆記試験に合格すること									
授業計画									
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)					
模擬試験1~11			22	1回目	4月中は過去問題を使った模擬試験の解説を丁寧に行う。 50分は計算問題、50分は知識問題について解説を行う。 誤った問題はやり直しレポートを提出する。				
模擬試験12~24			13		5月は過去問題を使った模擬試験の解説を行う。 25分は計算問題、25分は知識問題について解説を行う。 誤った問題はやり直しレポートを提出する。				
模擬試験25~47			23	2回目	再度、確認のため、同じ問題を実施しているので、 理解不足の部分を補強する。				
合計			58						
時間外学習について									
やり直しレポートを完成させて提出する。									
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について									
レポートは提出済みのこと。筆記試験の結果を70%、模擬試験の結果を30%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。									
その他(科目と実務経験との関連性について)									

科目名	電工技術知識演習			担当教員名	若林 茂典		□ 実務経験	
学科名	情報マルチメディア(情報ネットワーク専攻) 学科		学年	3	単位数(時間数)		4単位(94時間)	
実施時期	4月	～	5月	授業形態	講義	演習	○	実習
教科書 及び参考書	「第二種電気工事士(筆記試験対策テキスト)」(電気書院)							
授業の概要とねらい								
<p>電気工事士筆記試験の模擬試験を行う。 電気工事には、電気回路に関する理論的知識、施工技術に関する知識、配線図の読み方、電気事業の法律的な知識が必要とされる。 5月末の筆記試験までにこれらの知識を習得するために模擬試験を繰り返す。 自己採点を行うことで、自分の弱点を知り、やり直しをすることで知識の補強をする。</p>								
到達目標								
<ul style="list-style-type: none"> ・電気回路に関する理論的な計算ができること。 ・配線図を読み取ることができること。 ・電気工事にかかわる設備や機器、道具、材料について理解すること。 ・電気工事に関する法律を記憶すること。 								
授業計画								
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)					
模擬試験1～11		22	1回目	4月中は過去問題使った模擬試験を11回行う。 90分で解答する。その後、自己採点・分析を行う。 尚、解説については、試験対策で1回につき100分行う。 終了後は、誤った個所についてレポートを作成し、提出する。				
模擬試験12～24		26		5月は過去問題使った模擬試験を13回行う。 90分で解答する。その後、自己採点・分析を行う。 尚、解説については、試験対策で1回につき100分行う。 終了後は、誤った個所についてレポートを作成し、提出する。				
模擬試験25～47		46	2回目	5月中以降は過去問題使った模擬試験を再度23回行う。 75分で解答する。その後、自己採点・分析を行う。 尚、解説については、試験対策で1回につき45分行う。 終了後は、誤った個所についてレポートを作成し、提出する。				
合計		94						
時間外学習について								
やり直しレポートを完成させて提出する。								
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について								
筆記試験の結果を70%、模擬試験の平均点を30%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。								
その他(科目と実務経験との関連性について)								

科目名	電工実習実践		担当教員名	若林 茂典		□ 実務経験		
学科名	情報マルチメディア(情報ネットワーク専攻) 学科		学年	3		単位数(時間数)	4単位(140時間)	
実施時期	6 月 ~ 7 月		授業形態	講義		演習	△	
教科書 及び参考書	「第二種電気工事士(筆記試験対策テキスト)」(電気書院)							
授業の概要とねらい								
第2種電気工事士試験の出題予定の実技問題13種を完全にマスターする。実技試験では時間制限があるので、それを想定しながら課題の完成を目指す。完成した課題の最終チェックを相互に行い、欠陥に対する問題意識を持たせる。実習課題は模試形式で2回実施する。尚、取り組みはグループ単位で行い、あくまでもグループ主体で行動してもらう。								
到達目標								
第2種電気工事士試験の実技試験合格。								
授業計画								
授業項目・内容	時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)						
実習についてガイダンス 実習課題1	3	実習課題1を使いながら、実習の進め方について実習を行いながら説明する。						
実習課題2～実習課題13	20	A, B2つのグループに分け、グループ単位の活動とする。 ①各課題の問題分析を行う。複線図を作成する。 グループ内でディスカッションする。複線図は提出する。 ②ビデオを通して作業の流れを確認する。 ③確認のためにチェックリストを作成する。 グループ内でディスカッションする。 チェックリストについては、提出する。 複線図、及びチェックリストがOKならば、実習課題に取り組める(全員がOKでないと先に進めない)。						
実技1回目 実習課題1～実習課題13	65	グループごとに別課題とする。 50分:必要なケーブルや部材を集める。 (自分のグループの課題を準備する) 30分:問題に対する注意点や複線図を確認する。 10分:部材に誤りや不足がないか確認する。 50分:制限時間40分を目標に作成する。 (制限時間内に終了しない場合は、完成するまで続ける)					各自記録する。 氏名 課題番号 開始時間 終了時間 指摘事項 合格 or 不合格 チェックリスト	
		30分:全員終了後、グループごとにチェックリストを使い、厳しくチェックを行う。 指摘事項はチェックリストに記録して提出する。 (合格、不合格を判定する) 15分:不合格者は指摘事項の修正を行う。(15分) 50分:後片付けを行う。部材やケーブルも丁寧に分類する。						
実技2回目 実習課題1～実習課題13 (不合格者は 再チャレンジ)	52	グループごとに別課題とする。 課題はランダムに出題する。 50分:必要なケーブルや部材を集める。 (別のグループの課題を準備する) 10分:部材に誤りや不足がないか確認する。 40分:制限時間30分を目標に作成する。 (制限時間内に終了しない場合は、完成するまで続ける)					以上を記録して チェックシートとして 提出する。	
		30分:全員終了後、グループごとにチェックリストを使い、厳しくチェックを行う。 指摘事項はチェックリストに記録して提出する。 (合格、不合格を判定する) 15分:不合格者は指摘事項の修正を行う。(15分) 50分:後片付けを行う。部材やケーブルも丁寧に分類する。						
合 計	140							
時間外学習について								
実習課題の複線図やチェックリストなど提出物ができていない場合は、時間外に行う。 実習課題での指摘事項を振り返りながら、次に活かすこと。								
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について								
課題の出来具合を50%、実技試験の結果を50%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。								
その他(科目と実務経験との関連性について)								

科目名	MOS WORD(対策)			担当教員名	若林 茂典	<input type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報マルチメディア(情報ネットワーク専攻)	学科		学年	3	単位数(時間数)	2単位(58時間)
実施時期	6月～9月	授業形態	講義	演習	<input type="checkbox"/>	実習	<input type="checkbox"/>
教科書及び参考書	「よくわかるマスター MOS Word 2016 対策テキスト&問題集」(FOM出版)						
授業の概要とねらい							
Microsoft Office Specialist Word 2016の検定対策とし、各出題範囲ごとに、Wordの基礎～応用機能まで一連の操作を学ぶ。資格取得に必要な技術力を身につけ、オフィスソフトの利用・作成方法の知識・技術向上を目指す。							
到達目標							
Wordの基礎～応用機能の操作が行えること。 Microsoft Office Specialist Word 2016 の合格を目指す。							
授業計画							
授業項目・内容	時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)					
説明・パソコンの設定、課題と模擬試験のインストール	1	MOSの試験概要と教科書の付属ソフトのセットアップを行う。					
出題範囲1 (lesson1～29)	3	教科書のlessonの番号順に演習・作成を行う。 授業毎に、習熟度チェックの表に進捗を記入すること。 演習課題は、パソコン内に保管し、教科書のすべてのlessonが終了した時点で提出を行う。					
出題範囲1 確認問題(lesson30)	1						
出題範囲2 (lesson31～47)	3						
出題範囲2 確認問題(lesson48)	1						
出題範囲3 (lesson49～66)	3						
出題範囲3 確認問題(lesson67)	1						
出題範囲4 (lesson67～79)	3						
出題範囲4 確認問題(lesson80)	1						
出題範囲5 (lesson81～96)	3						
出題範囲5 確認問題(lesson97)	1						
確認問題 再演習と復習(出題範囲1)	2	教科書のlesson 確認演習+復習の2時間で1セットとする。演習後、できなかった部分は教科書の模範解答の指示を実施しながら、自力で完成させる。操作方法と問題の指示傾向に慣れるようにする。					
確認問題 再演習と復習(出題範囲2)	2						
確認問題 再演習と復習(出題範囲3)	2						
確認問題 再演習と復習(出題範囲4)	2						
確認問題 再演習と復習(出題範囲5)	2						
模擬試験1	5	1回につき制限時間40分で、教科書付属の模擬試験を実施する。結果にかかわらず、やりなおし・操作方法の復習を必ず行う。演習+復習の2時間で1セットとする。実施毎に模擬試験結果の表に点数を記入すること。 模擬試験は95点以上を目標とする。					
模擬試験2	5						
模擬試験3	5						
模擬試験4	5						
模擬試験5	5						
苦手模擬問題の演習	2	模擬試験のうち、結果の低いものを重点的に実施する。					
MOS Word 2016 検定試験実施	1	検定試験を実施する。実施後は担当教員へ報告する。					
合 計	58						
時間外学習について							
各出題範囲ごとの確認テストまでに教科書のlesson問題が終了しない場合は、自己学習を行うこと。 模擬試験の復習が時間内に終わらない場合は時間外で復習し、次の模擬試験に臨むこととする。							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
検定試験の結果を100%で評価する。評価は、評価点が100点をS、90点以上をA、80点以上をB、70点以上をCとし、69点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	MOS EXCEL(対策)		担当教員名	森崎 真由美・木村 宗裕		□ 実務経験	
学科名	情報マルチメディア(情報ネットワーク専攻) 学科		学年	3	単位数(時間数)	4単位(90時間)	
実施時期	6月	～	10月	授業形態	講義	演習	○ 実習 △ 実技 ○は主、△は併用
教科書及び参考書	「よくわかるマスター MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集」(FOM出版)						
授業の概要とねらい							
Microsoft Office Specialist Excel 2016の検定対策とし、各出題範囲ごとに、Excelの基礎～応用機能まで一連の操作を学ぶ。資格取得に必要な技術力を身につけ、オフィスソフトの利用・作成方法の知識・技術向上を目指す。							
到達目標							
Excelの基礎～応用機能の操作が行えること。 Microsoft Office Specialist Excel 2016 の合格を目指す。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
説明・パソコンの設定、課題と模擬試験のインストール			1	MOSの試験概要と教科書の付属ソフトのセットアップを行う。			
出題範囲1 (lesson1～32)			3	教科書のlessonの番号順に演習・作成を行う。 授業毎に、習熟度チェックの表に進捗を記入すること。 演習課題は、パソコン内に保管し、教科書のすべてのlessonが終了した時点で提出を行う。			
出題範囲1 確認問題(lesson33)			2				
出題範囲2 (lesson34～54)			3				
出題範囲2 確認問題(lesson55)			2				
出題範囲3 (lesson56～65)			2				
出題範囲3 確認問題(lesson66)			2				
出題範囲4 (lesson67～80)			2				
出題範囲4 確認問題(lesson81)			2				
出題範囲5 (lesson82～98)			3				
出題範囲5 確認問題(lesson99)			2				
確認問題 再演習と復習(出題範囲1)			2	教科書のlesson 確認 演習+復習の2時間で1セットとする。演習後、できなかった部分は教科書の模範解答の指示を実施しながら、自力で完成させる。操作方法と問題の指示傾向に慣れるようにする。			
確認問題 再演習と復習(出題範囲2)			2				
確認問題 再演習と復習(出題範囲3)			2				
確認問題 再演習と復習(出題範囲4)			2				
確認問題 再演習と復習(出題範囲5)			2				
模擬試験1			10	1回につき制限時間40分で、教科書付属の模擬試験を実施する。結果にかかわらず、やりなおし・操作方法の復習を必ず行う。演習+復習の2時間で1セットとする。実施毎に模擬試験結果の表に点数を記入すること。 模擬試験は95点以上を目標とする。			
模擬試験2			10				
模擬試験3			10				
模擬試験4			10				
模擬試験5			10				
苦手模擬問題の演習			6	模擬試験のうち、結果の低いものを重点的に実施する。			
MOS Excel 2016 検定試験実施			1	検定試験を実施する。実施後は担当教員へ報告する。			
合 計			90				
時間外学習について							
各出題範囲ごとの確認テストまでに教科書のlesson問題が終了しない場合は、自己学習を行うこと。 模擬試験の復習が時間内に終わらない場合は時間外で復習し、次の模擬試験に臨むこととする。							
成績評価の方法及び評価割合について							
検定試験の結果を100%で評価する。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	ネットワーク構築		担当教員名	馬場 清		<input type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報マルチメディア(情報ネットワーク専攻) 学科		学年	3		単位数(時間数)	1単位(32時間)
実施時期	9 月 ~ 10 月	授業形態	講義	演習	実習	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> は主、 <input type="checkbox"/> は併用
教科書 及び参考書	TECHNICAL MASTER はじめてのCentOS7 Linuxサーバ構築編						
授業の概要とねらい							
授業において当たり前のようにサーバーという単語がよく出てくるが、知識だけではなくサーバーを実際に自分で構築することにより、理解をより深める。また、サーバーOSとしてよく利用されるLinuxを操作することにより、コマンドやセキュリティの設定方法などを学習する。							
到達目標							
Linuxの操作方法をしっかりと身につけるとともに、自分でセキュリティ対策の施されたサーバーを構築できるようになることを目標とする。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
CentOS 7のインストール			2	まずは授業の内容を説明し、やるべき内容を分かってもらった上で、実際にサーバーの設定を行い、理解を深めていく。			
コマンドラインからの操作			2				
パッケージのインストールと管理を行う			1				
サービス管理を知っておく			1				
ファイルとディレクトリのアクセス権限を理解する			1				
高度なセキュリティの仕組みを理解する			2				
ゾーンを設定する/パケットフィルタリングルールを設定する			1				
DHCPをインストール/IPv4でDHCPサーバを使う			2	DHCPサーバーなどいくつかのサーバー構築する際に、サンプルの設定ファイルを渡すが、それを自分のネットワーク環境に合わせて修正をしてもらい、各自サーバー設定を行う。			
IPv6でDHCPサーバを使う			1				
DHCPサーバの動作を確認する			1				
ファイル共有の仕組みを理解する			1				
Sambaをインストール/フォルダを公開する			1				
Windowsからアクセスする/共有へアクセス権を設定する			2				
DNSキャッシュサーバを理解する			1				
unboundをインストール/DNSキャッシュサーバを作る			1				
フォワーディングサーバを作る			1				
DNSコンテンツサーバを理解する			2				
BINDをインストール/マスタサーバを作る			2				
メールサーバの構築を準備する			1				
Postfixをインストール/設定する			1				
POP/IMAPサーバを設定する			1				
Apacheの基本的な設定を行う			1				
Apacheの便利な設定を行う			2				
Linuxサーバー構築試験			1				
合 計			32				
時間外学習について							
試験で評価を行うため、事前の予習およびその日学んだ内容の復習をしっかりとしておくこと。							
成績評価の方法及び評価割合について							
出席率・授業に取り組む姿勢・試験の結果で総合的に評価する。試験の結果を全体の90%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満はD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	プレゼンテーション応用		担当教員名	若林 茂典・森崎 真由美		<input type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報マルチメディア(情報ネットワーク専攻) 学科		学年	3	単位数(時間数)	3単位(108時間)	
実施時期	6 月 ~ 11 月	授業形態	講義	演習	実習	<input type="checkbox"/>	実技 <input type="checkbox"/>
教科書 及び参考書							
授業の概要とねらい							
近年の社会活動の中では、パワーポイントなどを利用した、説得力のあるプレゼンテーション力が要求されている。様々な状況を想定し、パワーポイントの作成からプレゼンの実施までを行うことを通して、効果的なプレゼンテーションとは何かを考え、実践してもらおう。							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンの構成を考えることができるようになること。 ・プレゼンに必要なストーリーを作成できること。 ・プレゼンに必要な資料を集め、分析できること。 ・予定通りのプレゼンができるようになること。 							
授業計画							
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
プレゼンテーションツールの使い方		8	パワーポイントの使い方とプレゼンテーションの構成。				
課題1		10	6つの課題について、パワーポイントを作成し、発表し、評価する。 課題1, 2では、自己のことについて 5分間のプレゼンテーションを実施。 課題3, 4では、テーマに従ったプレゼンテーションを10分間で実施。 課題5では、複数人で分担したプレゼンテーションを1人10分で実施。 テーマは以下のように考えているが検討中。 課題1 自己紹介 課題2 伝えたいこと 課題3 社会(政治・経済・文化)の動向について 課題4 製品導入提案 課題5 新技術紹介				
課題2		10					
課題3		20					
課題4		20					
課題5		40					
合 計		108					
時間外学習について							
テーマに関する資料集めや、資料分析							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
内容の不十分なものは再発表とする。各課題のプレゼンテーションについてを5段階で評価する。その平均を求めて、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未発表の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	卒業研究CSB			担当教員名	木村宗裕・森崎真由美 吉良和也・馬場清		□ 実務経験	
学科名	情報マルチメディア(情報ネットワーク専攻)	学科	学年	3	単位数(時間数)	5単位(260時間)		
実施時期	10月～1月	授業形態	講義	演習	実習	実技	○	○は主、△は併用
教科書 及び参考書								
授業の概要とねらい								
<p>実際の業務では自ら学ぶ姿勢が重要となる。また、知識を与えられるだけでなく、自ら知識を求めて情報を収集する積極性が求められる。本科目では、①必要な情報を収集する力 ②必要な情報をレポートとしてまとめる力 ③まとめたレポートをプレゼンする力 の3つの力を実践を通じて獲得することを目的とする。授業では2つのテーマを出題し、それぞれについて各自調査を行い、レポート提出及びプレゼンテーションを行う。</p>								
到達目標								
<p>自ら情報を収集し、レポートとしてまとめることができるようになる。また、資料を作成しプレゼンテーションを行い、伝えたいことを聴衆に適切に伝えることができるようになる。</p>								
授業計画								
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
授業説明				2				
課題1 テーマ設定				12	<p>テーマについては担当教員が妥当性を確認する。毎日帰宅前に進捗報告を行う。発表の際、不十分である点は追加のレポートを作成し提出する。</p>			
資料収集				40				
レポート作成・プレゼンテーション資料作成・発表練習				20				
本発表				6				
追加レポート作成・成果物提出				10				
課題2 テーマ設定				12	<p>テーマについては担当教員が妥当性を確認する。毎日帰宅前に進捗報告を行う。中間発表で現時点での状況を発表し、指摘事項があればそれを盛り込んだ上で残りの作業を行う。発表の際、不十分である点は追加のレポートを作成し提出する。</p>			
資料収集				60				
レポート作成・プレゼンテーション資料作成・発表練習				36				
中間発表				6				
資料収集				20				
レポート修正・プレゼンテーション資料作成・発表練習				20				
本発表				6				
追加レポート作成・成果物提出				10				
合 計				260				
時間外学習について								
<p>予定より作業が遅れている場合は時間外に作業を行い、発表および成果物提出が遅れないようにすること。</p>								
成績評価の方法及び評価割合について								
<p>課題1の発表および提出された成果物で40%の評価を行う。また、課題2の発表および提出された成果物で60%の評価を行う。なお、レポートやプレゼン資料などの成果物がすべて提出されていない場合は評価を行わない。</p>								
その他(科目と実務経験との関連性について)								